

## キャッチは「メ～ロメロ！メ～テレ」

メ～テレ開局60周年で多彩な事業  
記念ソング、「ドデスカ！」特番、映画祭……  
「愛され続ける局であるために」（狩野隆也社長）



狩野 隆也（かの・たかや）

1959（昭和34）年、岐阜県恵那市出身。1983年3月、早大卒、同4月、名古屋テレビ放送株式会社入社。2001年7月、報道局スポーツ部専任部長。03年6月、編成局東京編成部長。08年7月、編成制作局長。13年6月、取締役総合ビジネス局長。17年6月、常務取締役。19年6月から代表取締役社長（現職）。

「メ～テレ」の愛称で親しまれている名古屋テレビ放送が4月1日、開局60周年を迎え、2022年度の1年間を周年期間として多彩な記念事業を繰り広げる。東海3県エリアに密着した情報提供を続けてきた同局は、節目の年を機に更なる飛躍と地域貢献を目指す。就任から間もなく丸3年となる狩野隆也社長のキーワードは「メ～ロメロの熱い地元愛」だ。（聞き手は塚本隆編集長。取材は2月25日。写真撮影時のみマスクを外してもらった）

——開局60周年、おめでとうございます。

**狩野社長** 1962年4月1日に開局し、ちょうど60年の節目に当たります。4月からの1年間を60周年期間と位置付けます。地域の皆様に愛され続ける局であるために社内チームで検討を重ねており、色々な企画を展開していきます。まず、ブランディングです。新しいキャッチコピーを作りました。4月からのキャッチコピーは「メ～ロメロ！メ～テレ」で、ブランドロゴも新しいものに変更します。ウルフィもイメージチェンジします。

### ウルフィもイメチェン

——コピーに込めた思いとは。

**狩野** これまでメ～テレは東海3県に密着して情報提供をしてきました。簡単に言葉で言い表せないくらい、地元に対してメ～ロメロであるという気持ちをキャッチに込めました。私たちの熱い思いを地域の人々に伝えるため、メ～テレグループの全員が積極的に汗をかきたいと



メ～テレ60周年の記念ロゴ

いう思いも込めています。ウルフィのデザインも子供に愛してもらえるように少し柔らかい表情にしました。

——それは楽しみです。

**狩野** 周年記念のテーマソングも作りました。地元出身の男性3人組、ソナーポケットの書き下ろしで、彼らにとって地元テレビ局と組むのは初の試みです。周年期間中、様々な場面で披露しますが、朝の地域情報番組「ドデスカ！」のテーマ曲としても使用します。今年は当社が自社制作の朝ワイドをスタートして35年、そして2002年にタイトルを「コケッコ」から「どですか」に変えて以来ちょうど20年と、節目の年です。そこで、3月27日には20周年を記念した2時間の特別番組を放送します。それ以降も、60周年にふさわしい企画を順次出していくつもりです。ご期待ください。

### 「希望の泉」もリニューアル

そのほか、名古屋・栄の噴水「希望の泉」は当社が1969年に設置したのですが、今回、リニューアルプロジェクトを進めています。当時からメ～テレの社是として掲げていた「地域社会への奉仕」の一環として、市民の憩いの場にしてほしいと名古屋市に寄贈したものです。「希望の泉」という名称も社内公募で選ばれました。歴史がある噴水ですが、半世紀を経て老朽化が目立ってきたためのリニューアルで、新

たな姿は60周年を迎えたメ～テレの6チャンネルにあやかって、6月6日にお披露目する予定です。生まれ変わった「希望の泉」が、再び地域のみなさんに親しんでいただける存在になるよう期待しています。

——あの噴水はメ～テレさんが設置された、とちょっとアピールしたいですね。映画事業にも注力されています。

**狩野** コンテンツの分野としてかねてから映画事業に力を入れています。当社が幹事社として制作した2015年の河瀬直美監督、樹木希林さん主演の「あん」や、16年の「淵に立つ」など、カンヌをはじめ国際映画祭でも評価された作品が多くあります。作品がかなり増えてきましたので、ここで“メ～テレシネマ”のブランドを多くの人に知ってもらおうと、夏までに映画祭を開催しようと企画しています。監督や俳優などを交えたワークショップなどと合わせて、映画事業の盛り上げにつなげていこうと思っています。

——昨年からのスタートの3本柱の「放送事業」「コンテンツビジネス戦略」「新規事業」の進展状況はいかがですか。

**狩野** 現在も維持、深化に取り組んでいます。新型コロナウイルスの影響で全てが順調とは言えませんが、芽が出て、花が咲きつつある事業もあると、私は評価しています。放送事業では「ドデスカ！」の視聴率が21年度上半期に歴代最高を記録するなど好調で、東海3県の街の魅力を再発見する「いいね！わがマチ